



99

横浜美術館・森美術館コラボレーション
中高生プログラム
[体験しよう! 伝えよう! アート]
蔡國強展と
ディン・Q・レ展をめぐる
ワークショップ
[記録誌]

横浜美術館・森美術館コラボレーション中高生プログラム [[]体験しよび伝えよびアート[]]

蔡國強展とディン・Q・レ展をめぐるワークショップ [[]概要[]]

開催期間：2015年6月28日(日)～12月13日(日)

6ヶ月にわたる中高生対象の長期プログラム。「蔡國強展：帰去来」とアートについて知り、8月に小学生対象のプログラム「蔡國強展をたのしむ!こども探検隊」を中高生が企画、実施。また、森美術館「ディン・Q・レ展:明日への記憶」とのコラボレーションプログラムも行う。プログラム終了後、番外編として有志が本誌の編集に参加した。

日程	2015年6月28日〔日〕～12月13日〔日〕 (本編9回 + 番外編2回)
会場	横浜美術館8階および展示室 森美術館 (第8回のみ)
対象	中学生、高校生
参加費	無料
参加人数	21名

蔡國強展を知る編

第1回 | はじめに | 6月28日〔日〕10:00～12:00

- 蔡國強と作品について
講師：逢坂恵理子(横浜美術館館長)
- 横浜美術館で行われた火薬ドローイング制作プロセスの紹介
- プログラムの目的と概要説明
◎参加人数19名

第2回 | アーティストに出会う① | 7月5日〔日〕10:00～12:00

- 蔡さんってどんな人?
講師：志賀忠重(いわき万本桜プロジェクト代表)
- 蔡國強さんに出会う
講師：蔡國強(アーティスト)
◎参加人数14名

第3回 | 展覧会をみる | 7月19日〔日〕10:00～12:00

- 中国ってどんな国?
講師：劉雪雁(関西大学准教授)
- 蔡國強展のグループ鑑賞
- グループディスカッション「小学生にどんなことを伝えるか」
◎参加人数19名

こども探検隊 企画・実施編

第4回 | 「蔡國強展をたのしむ!こども探検隊」の企画 ①

- 7月26日〔日〕10:00～14:00
- 4グループにわかれ、小学生のためのプログラム案を検討
◎参加人数16名

第5回 | 「蔡國強展をたのしむ!こども探検隊」の企画 ②

- 8月9日〔日〕10:00～14:00
- プログラム最終案の作成と当日準備
◎参加人数18名

第6回 | 蔡國強展をたのしむ!こども探検隊

- 8月19日〔水〕10:00～15:30
- 小学生のためのプログラム実施
- 森美術館のプログラムに参加している中高生を迎えるプランづくり
◎参加人数13名

森美術館とコラボ編

第7回 | 森美術館の中高生を迎える

- 8月30日〔日〕10:00～14:30
- 蔡國強展のグループ鑑賞
- 蔡國強展にさらに深くつっこんでみよう
ディスカッション1～蔡さんが人と協働する理由を分析しよう
ディスカッション2～作品をさまざまな視点からみよう
◎参加人数14名+森美術館の中高生10名

第8回 | アーティストに出会う ②—— 森美術館へ行く

- 9月13日〔日〕10:30～14:30
- 「ディン・Q・レ展：明日への記憶」について
講師：荒木夏実(森美術館キュレーター)
- ディン・Q・レさんに出会う
講師：ディン・Q・レ(アーティスト)
◎参加人数14名+森美術館の中高生12名

まとめ+記録編

第9回 | まとめ——たくさんの出会いから

- 10月4日〔日〕10:00～12:00
- プログラムの振り返り
◎参加人数14名

番外編1 | 記録誌をつくる ①

- 11月29日〔日〕10:00～12:00
- 編集とは?
講師：染谷ヒロコ(編集者)
- 記録誌のコンセプト、構成、材料を考える
◎参加人数8名

番外編2 | 記録誌をつくる ②

- 12月13日〔日〕10:00～12:00
- デザインとは?
講師：森上暁(NDCグラフィックス デザイナー)
- 記録誌案のプレゼンテーション
- タイトル案を考える
◎参加人数7名

蔡國強展をたのしむ!

こども探検隊 [[]概要[]]

内容からスケジュールまですべて中高生が計画した、蔡國強展を120パーセント楽しむためのプログラム。4グループにわかれ、中高生の案内で小学生が展覧会ツアーとワークショップ、ランチ交流を体験した。

日時	2015年8月19日〔水〕10:30～14:00 (ランチ交流を含む)
会場	横浜美術館8階および展示室
対象	小学4～6年生
参加費	無料
参加人数	20名

99

蔡國強展とディン・Q・レ展をめぐるワークショップ [[]記録誌[]]

発行にあたって

発行日：2015年12月

この記録誌は、2015年6月から12月の長期にわたる中高生プログラムをまとめたものである。中高生も編集の一部に参加した。●プログラムは横浜美術館での「蔡國強展：帰去来」をテーマに、展覧会開幕前の6月から開始した。21名の参加者はアートや展覧会について学ぶにとどまらず、8月には小学生を対象とした「蔡國強展をたのしむ!こども探検隊」という展示を巡るツアーとワークショップを企画・実施した。加えて今回は、森美術館の「ディン・Q・レ展」とのコラボレーションとして、森美術館の中高生プログラム参加者が当館を訪れ、蔡國強展ツアーを体験し、また、当館の中高生たちが森美術館を訪問しディン・Q・レ展ツアーを体験するという、中高生相互の交流もあった。したがって、今回の中高生プログラムは、①蔡國強を知る編 ②こども探検隊企画・実施編 ③森美術館とコラボ編 ④まとめ+記録編という4編からなる。

●さて、「99」という記録誌名は蔡國強展の作品に由来する。中国において9は特別な意味を持つ。数字の中の最大数である9は、中国語で長い時間を示す「久」と発音が同じであることから、終わらない時間を示す。たとえば、蔡國強さんは祖母の100歳の誕生日ではなく、99歳の誕生日を長寿を願って盛大に祝ったという。また、9月9日には永遠の幸せを願い結婚するカップルが多いなど、中国において9という数字を巡るエピソードには事欠かない。

●人々にインパクトを与えた《壁撞き》は、99頭の狼の群が宙を飛び、その先の透明なガラスの壁に激突し、転げ落ち、再び立ち上がることを繰り返す様が展示室いっぱいに表示された作品だ。《壁撞き》の展示室で蔡さんから、狼が99頭である理由の説明があった。記録誌の編集に際しデザイナーの方から、「題名は?」と尋ねられ、彼らがその候補に99をあげたのも、強い印象が残っていたからだろう。●そして冊子表紙の色とりどりの洗濯バサミも中空の狼たちである。ワークショップ準備中に、ある高校生が洗濯バサミをつなげて狼の動きを表すことを思いつき、小学生とのワークショップとして行った。白いボックスに弧を描いて吊り下げられた洗濯バサミの列を大切に持ち帰った小学生は、ご家族にどんな説明をしたのだろうか。●今回のプログラムのハイライトは前回同様、中高生が小学生にギャラリートツアーやワークショップを通して蔡國強展を伝えることと、蔡國強さんとディン・Q・レさんという二人のアーティストと中高生が出会うことであった。横浜山手中華学校の中学生が数名参加していたので、発音指導を受けて中国語での「蔡先生、こんにちは」をみんなで練習してから、蔡さんと対面した。蔡さんの話を聞く中高生たちの輝くような顔つきを見れば、アーティストとの出会いが心に響いていたことは間違いない。森美術館の「ディン・Q・レ展」では、ベトナム戦争について知り、「重い」と一言。森美術館の中高生との交流では、「うちらと全然違う!」と東京の大人びた中高生に圧倒されるなど、出来事に遭遇するたび、その発言はいつもごく短いものではあるが、番外編を含め全11回、6ヶ月が過ぎゆく中で、中高生たちの確かな変容を感じつつ、プログラムは終了した。

編集：藤原 由紀子

写真：森美術館、横浜美術館、森美術館、森美術館

協力：横浜山手中華学校、NDCグラフィックス

制作：森美術館、横浜美術館、森美術館

印刷：株式会社印刷屋

発行：森美術館、横浜美術館、森美術館

発行所：森美術館、横浜美術館、森美術館

発行部数：100部

定価：1,000円

ISBN：978-4-905001-00-0

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森美術館、横浜美術館、森美術館

お問い合わせ：森



【中高生プログラム参加者】

- ◎荒井響心(中学2年) ◎内田然(中学1年)
- ◎遠藤光(中学2年) ◎菊地亜美(高校2年)
- ◎菊間章紘(中学3年) ◎北林和希(高校1年)
- ◎坂野夏海(高校3年) ◎杉山美海(中学2年)
- ◎竹内勝彦(中学2年) ◎種子田まいり(中学3年)
- ◎長尾友起(中学2年) ◎根本陸温(高校1年)
- ◎平田愛花(中学1年) ◎邊見明洸(中学1年)
- ◎政本麻友子(中学3年) ◎茂木菜々(高校1年)
- ◎森實萌(高校1年) ◎山口凜(中学2年)
- ◎山下粧子(高校1年) ◎結城凜太郎(中学1年)
- ◎練亦然(中学2年)

【スタッフ】

- ◎関淳一(教育普及グループ長)
- 教育プロジェクト
- ◎端山聡子(チームリーダー)
- ◎河上祐子 ◎金井真悠子
- ◎太田雅子 ◎六島芳朗

【ボランティア】

- ◎青木裕子 ◎井上三香 ◎沖田紀子

【協力】

- ◎森美術館

6 | 28. 第1回……◎はじめに



◎展覧会を企画した逢坂館長のレクチャー

参加者の中高生、美術館スタッフの初顔合わせ。まずは新聞タワーづくりと他己紹介で交流し、緊張をほぐした。逢坂館長による蔡國強展の話、美術館で行われた蔡さんの「火薬ドローイング」の制作映像を通して、展覧会やアーティストについて知る。「はじめまして」の出会いがたくさんあった一日。



◎「今日の発見」ノートを書く

「今日の発見」ノート：プログラム各回の終了時に随時、印象に残ったことや感想を中高生がノートに自由に書き留めた。



蔡國強さんと長年の親交があり、東日本大震災の復興活動に取り組む志賀忠重さんを福島県いわき市からお呼びし、蔡さんはどんな人かエピソードを聞く。その後、準備中の展覧会会場で蔡さん本人に出会う。ユーモアたっぷりに語られる子ども時代や作品の話に、みな真剣に聞き入り、大きな刺激を受けた。蔡さんにももらった大切な言葉を「今日の発見」ノートに記した。

蔡國強さんのお話から

- 見える壁をはずしても、実は見えない壁は人間と人間の間にはまだある。じゃあ、見えない壁をとってやろうと思いました。人間と人間、国と国、そして違う文化の間に、実は壁はたくさんあります。
- アーティストになった理由の一つは、大人になったら毎日会社に行くのが嫌で、自由な生活を続けたかったから。
- アーティストの目は普通の人に見えないものを見えています。皆さんの顔の色とか魅力、目の光など全部を見ているんですよ。
- 元気でないと、いいアーティスト、いい人間じゃない。
- 子どもは自分がナンバーワンと思わなかったらダメです。あなたたちは生き物ですから。

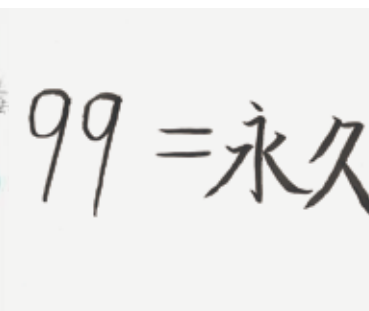
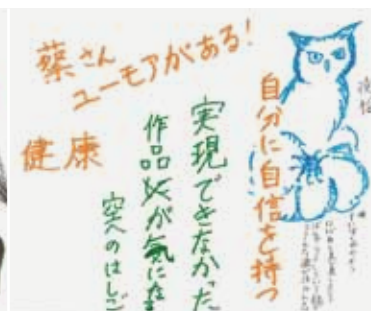
中高生から見た蔡さんとは?
 面白いことにかけて天才的で、人間のすばらしさも知っている方だった。
 すごい優しい、自分よりも圧倒的にすごい人。
 ユーモアがある人。自信を持って「ウソ」みたいだけど“本当”にやっている人。
 フラックで、芯がしっかりしていて明るく、アーティストっぽかった。
 よく笑う。



◎志賀忠重さんのレクチャー



◎展示準備中の《壁撞き》(2006年、ドイツ銀行蔵)の前で、蔡さんの話を聞く



8|19

第6回……●蔡國強展をたのしむ!こども探検隊

Aチーム [意外隊]

●内田然●北林和希●種子田まいり●平田愛花●小学生参加者:4名



◎陶製の《朝顔》(2015年)を観察

本番当日、メンバー3人が欠席し、高校生一人で小学生を迎える。スタートは、準備しておいた木の幹が描かれた大きな模造紙に、全員で花や虫など好きなものを描き込んだ。作品鑑賞では、高校生のお話を聞いて小学生が作品に表現されたものを発見していく。その後、展覧会で心に残ったものを思い思いに紙粘土で創作した。



◎白いボードの上に紙粘土で制作

見よう創ろう深めよう

制作では小学生にアドバイスできたが、展覧会の鑑賞では説明が見りなかったかも。(中高生)
蔡國強さんの作品はとても堂々としていて、火薬を使ったとても新しい描き方だと思った。(小学生)
あんなに大きな作品がよくできたなと思った。(小学生)

8|19

第6回……●蔡國強展をたのしむ!こども探検隊

Bチーム [となりのトロロ]

●遠藤光●坂野夏海●竹内勝彦●長尾友起●根本陸温●練亦然●小学生参加者:5名



◎ひたすら折り紙を折る



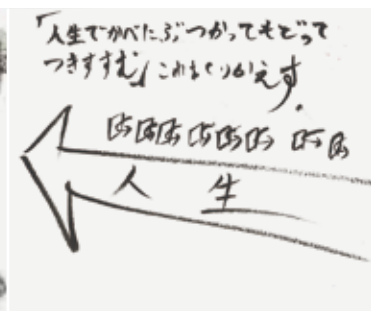
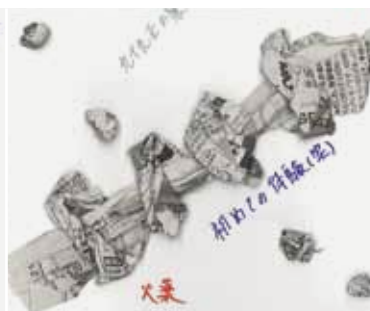
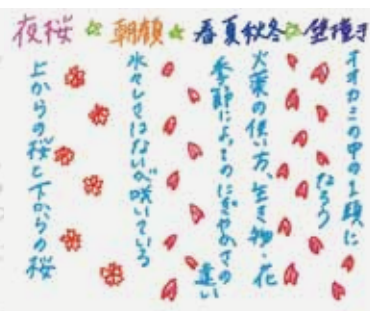
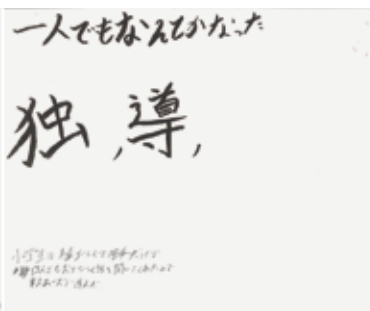
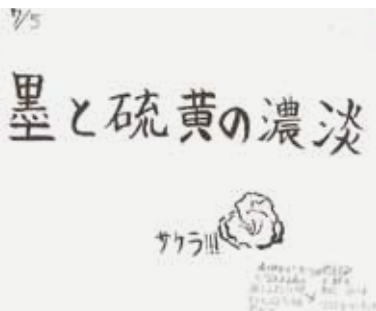
真夏の花見大会
～心の桜も満開させよう!～

はじめに「絵しりとり」でウォームアップ。展示室では、高さや角度を変えながら、じっくりと作品を見てまわった。その後のワークショップでは、《夜桜》をイメージした制作を行う。小学生とともに折り紙を丁寧に折ってさまざまな色の桜の花をたくさんつくり、1本の木をみんなで満開にした。

小学生の見方、考え方がすばかった。(中高生)
プログラムの手順をもっと詳しく考えておくべきだった。(中高生)
花びら一つもつめるのは簡単だけど、あわせて一つの桜の花にするのが大変だった。(小学生)



◎《夜桜》(2015年)の大きさを体感



8|19水

第6回……●蔡國強展をたのしむ! こども探検隊
Cチーム [skyyy]

●菊地亜美●杉山美海●山口凜●山下粧子●結城凜太郎●小学生参加者:5名

「夏」も表現してみよう



手作り名刺をつくって自己紹介をすることからスタート。ワークショップは、《春夏秋冬》からインスパイアされ、紙粘土と砂を用いたレリーフ状の立体的な絵づくりに挑戦した。小学生は「夏の思い出」をテーマに、作品鑑賞で発見した花火や虫などを制作。最後に全員の作品を並べて一つの作品とした。

◆ 作品の魅力も伝える難しさも実感した。(中学生)
◆ 《春夏秋冬》は細かった。手づくりなのがすごい!(小学生)
◆ 迫力のある展示ばかりだった。(小学生)



◎紙粘土と砂でレリーフをつくる



◎白い磁器のレリーフと火薬の黒の対比をみる

8|19水

第6回……●蔡國強展をたのしむ! こども探検隊
Dチーム [wolf]

●荒井響心●菊間草紘●邊見明洸●政木麻友子●茂木菜々●森實萌●小学生参加者:6名



*

《壁撞き》の鑑賞を深める狼づくしのプログラム。鑑賞前には「リアルな狼をつくる」と題して、それぞれがイメージする狼を紙粘土でつくった。鑑賞後は、洗濯バサミを狼に見立てて《壁撞き》の動きを表現。さらに、一頭一頭の狼のセリフを考え、作品画像の拡大コピーに書き込むという3つの制作を行った。



◎正方形の箱内で洗濯バサミが宙づりに



◎狼のセリフを書き込む

13
こども探検隊企画・実施編

making wolf

◆ 小学生が予想以上にワクワクしていて、お互い楽しめた。(中学生)
◆ みんな夢中で時間がたつのが早かった。(中学生)
◆ 洗濯バサミを使ったのが、いつもと違うやり方でおもしろかった。(小学生)

作品のみりよくを伝える難しさを
実感



人によって
見方、伝え方は
様々である。

表現力



狼 = 勇気



◎遠くから《夜桜》の全体をみる

**



**

森美術館のプログラムに参加している中高生を迎え、蔡國強展をナビゲート。その後、「蔡さんが人々と協働して作品制作する理由」「蔡作品のよい／よくないところ」などをテーマに、グループディスカッションを繰り返した。同年代どうして意見交換をし、作品や作家の考えを批評的な視点をもってとらえ、鑑賞を深めた。



◎付箋を使ってみんなで意見を出し合う

森美術館「ディン・Q・レ展：明日への記憶」を訪問。キュレーターの荒木夏実さんからベトナム戦争をテーマとするディン・Q・レさんの作品についてお話を聞く。再会した森美術館の中高生の案内でディン・Q・レ展を鑑賞。午後は作家本人と出会う。中高生とディンさんが互いに質問にしながら、ディンさんの考えや人柄に触れた。



◎森美術館の中高生に導かれて展示を巡る

**



◎みんなで輪になりディンさんと話す

**

ディン・Q・レさんのお話から

- 自分と関係していると思える作品はありましたか？
- 今の私たちのため、次の世代のために覚えておくべき記憶があると思います。過去のためだけではなく、将来のため、明日のために考えたかったのです。
- 自分にとってアートは社会とのコミュニケーションの言葉になっています。

◆ ディンさんの作品は物語のようで、
展覧会を通してメッセージが伝わってきた。
◆ 自分の頭がいっぱいになって、
何を考えればいいのか分からなくなった。
◆ 戦争のテーマは重いけど、どんな意味があるか
教えてもらった気がする。



◎朗らかなディンさん

**



年上に教える方が
難しい……

作品を創ることで
「人」を見る眼、人の気持ち
が感じられるようになる、



ほんの少しだけ光を
見える光の輝きを
何よりも大切にす
るべきだ。
どうしなれば道は
見えてくる。

3グループにわかれ、プログラムを通して「自分にとって新しい体験だったこと」「見方や考え方が変わったこと」について、活動時に考えたことや感じたことなどを思い出しながらかつ話し合った。最後に、プログラム全体での「自分にとって一番の発見」を一言にまとめ、色紙やカラーペンを使って表現。発表してまとめとした。



◎まとめを一人ずつ発表

◆日本にはない世界観があって良かった。
◆芸術は多面体だ!
◆人との関わりの大切さ
◆知識 発見



◎貼り出された記録写真を見て、これまでの活動を思い出す

プログラム本編終了後、中高生有志による、本誌制作のための編集委員会を実施。

1回目は「編集」にスポットをあて、編集者の染谷ヒロコさんから「編集」とは何か、レクチャーを受ける。自分たちの活動をどのように読み手に伝えるかを考え、ページ構成案を作成し、掲載要素を洗い出す。

2回目はデザイン事務所・NDCグラフィックスを訪問。構成案と誌面デザインへの希望を伝え、デザイナーの森上暁さんから「デザイン」についてお話を聞く。オフィスのカッコよさにもしびれた一日。



◎染谷ヒロコさんのレクチャー



◎デザイナーの皆さんとミーティング



◎デザイン事務所をぐるりと一周

あとがき

プログラム当初、開始時刻を迎えるまでの会場はいつも静まり返っていた。受付で挨拶をしたきり、席に座ると目線も交わそうとしない中高生たち。緊張しているのだろうか、どんなモチベーションで来ているのかと不安になった。それでも毎回通ってくるのだから、それぞれに何か新しい経験を求めているに違いないと期待し、様子を見守った。● 作品を一緒に見て感想を聞いても、案の定、言葉数は少ない。彼らがどんなふうに関わり合ったのかは、最も気になるところだ。しかし、自分自身もその年の頃は、自分の内側で起こっていることを人に伝えるのは苦手だったことを思い出し、それが中高生というものと、ポツポツとした言葉を大事に受け止めた。● そんな彼らが蔡國強さんに出会った時、それまでとはまるで別人のごとく、顔を輝かせた。吸い寄せられるように蔡さんの言葉に耳を傾け、自然と溢れる笑顔。また、ディン・Q・レさんとのディスカッションでは、緊張と期待が入り交じった面持ちで、前日の夜は寝られなかったという人もいた。枠に縛られない自由なオーラをまとった二人のアーティストを前にし、みんなの頭の中で突然、新しい扉が開いた。その瞬間のワクワクがこちらにも存分に伝わってきた。● もうひとつ驚きだったのは、毎回の終わりに記された「今日の発見」ノートだ。中高生が帰った後でのぞかせてもらうのが楽しみとなった。初めて出会う作品やアーティストから大いに刺激を受け取り、人に伝えることの難しさを思い知って自信を失ったり、自分を鼓舞したり。語りはしないけれどノートには素直な気持ちを詰め込むことができる人、自己消化中でノートに表現しきれない人といろいろだが、心の中ではそれぞれにたくさんの思いが渦巻いている様子が見て取れる。そして、彼らなりに外の世界とつながろうとしていることも。● 多くの中高生にとって、日常は学校と家庭が主だ。自分も受験勉強に追われていた中高生時代に、自分の思考回路とはまったく違う次元で生きている大人がいることを知っていたらと、うらやましくも思う。彼らが日常から一歩外に飛び出した美術館という場で、美術、アーティスト、仲間や小学生、そして自分という未知に出会い、目をキラキラさせたり、悩んでモヤモヤしたりしながら、驚くようなスピードで変化していく瞬間に立ち会えたことが、何よりうれしい。

横浜美術館 教育普及グループ 教育プロジェクト
河上祐子



99

横浜美術館・森美術館コラボレーション
中高生プログラム [体験しより伝えよ!アート]

蔡國強展と
ディン・Q・レ展をめぐる
ワークショップ
[記録誌]

- ◎発行
横浜美術館 教育普及グループ 教育プロジェクト
220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
- ◎発行日
2016年3月
- ◎編集
参加の中高生有志 | 染谷ヒロコ
横浜美術館 教育普及グループ 教育プロジェクト
- ◎デザイン
NDCグラフィックス
- ◎撮影
加藤 健 (*マークのついた写真)
御厨慎一郎 (**マークのついた写真 | 写真提供: 森美術館)
- ◎印刷
株式会社 ホットウィル

